

事業所名

文京区児童発達支援センター 児童発達支援 そよかぜ

支援プログラム

作成日

令和7年

3月

19日

理念	私達は、子どもに安心・安全な環境を提供し『1. 心と身体の土台を作る 2. 楽しい遊びを通して、経験の幅を広げる 3. 社会の中で生きる力を育む』ことを目指します。								
支援方針	安全で健康に過ごせる環境を作り、全身運動・感覚遊びなど、楽しく遊べる活動の中で、信頼できる大人からの見守りや承認・共感・励ましなどの温かい関わり（やりとり）を大切に、支援を行います。それにより、幼児期の子どもの発達の土台作りをし、さらに学童期には「社会の中で生きる力」の育ちを積み重ねていきます。 常に子どもを真ん中におき、多職種によるチームアプローチにより、家族や関係機関との連携を図っていきます。 将来、子どもと家族が社会の中で生きやすくなり、豊かな人生を歩んでいくことができるよう、幼児期・学童期の子どもを育てる保護者に寄り添い、共に歩んでいきます。								
サービス提供時間	平日	9:30	～	14:00	営業時間	平日	9:00	～	18:00
	第2、第4土曜日	9:30	～	11:30		第2、4土曜日 及び学校長期休業期間	9:00	～	17:00
送迎実施の有無	平日は送迎有り・第2、第4土曜日は無し								
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	・生活の流れを一定にしながら、職員と一緒に、身の回りのこと（排泄、着脱、食事等）に繰り返し取り組むことで、‘自分でできた’と感じられる経験を重ねられるよう、環境を整えています。子ども達の心身の状態を細やかに観察しながら、気持ちに寄り添い、安心して過ごせるようにしています。							
	運動・感覚	・毎日の活動の中に、リズム運動やホールでの大型遊具遊び、戸外活動（散歩）等を取り入れ、様々な身体の動きを経験することで、発達の土台となる身体づくりを行っています。子ども達の求める感覚や感触が遊びの中で十分に満たされるように、様々な感覚遊び、感触遊びを提供しています。							
	認知・行動	・一人ひとりの理解力や情報処理の特性に合わせて、生活の流れや活動内容に見通しがもてるように、イラストや写真、実物等で視覚的に提示したり、声掛けの方法を工夫したりしています。集まる場所や座る場所を視覚的に示す、パーテーション等を活用して刺激量を調整する等して、落ち着いた気持ちで活動に参加できるように配慮しています。							
	言語・コミュニケーション	・子ども達の好きな遊びを一緒に楽しむ中で、子ども達の動きや表情の変化等から思いをくみとり、意味づけています。やりとりを繰り返すことで発信を引き出し、相手に伝わったという経験につなげています。子ども達の表現を受け、代弁したり、場面に合わせた発話のモデルを示したりすることで、やりとりの楽しさを感じられるようにしています。							
	人間関係・社会性	・毎日の繰り返しの経験が大切にされる分かりやすい環境の中で、職員が個別的な関わりを行い、子ども達が安心して過ごせる場所となるようにしています。子ども達の好きな遊びを一緒に楽しむことで、人への意識が芽生え、職員との信頼関係が構築できるように関わっています。職員との信頼関係をベースに、一人ひとりのペースに合わせて、子ども同士や小グループでの関わりに広がっています。							
家族支援	・定期的な面談を年1～2回設定する他、必要に応じて専門職による相談を実施しています。保護者会や講演会を通して、情報提供を行っています。			移行支援	・初めて地域の園に就園する子どもを対象とした「移行期支援プログラム」を実施しています。多機能型事業所のメリットを生かして、放課後等デイサービス事業との情報共有を行っています。				
地域支援・地域連携	・保護者の希望を確認しながら、必要に応じて、地域の関係機関との連携を実施しています。			職員の質の向上	・定期的に、児童精神科医師等、複数の専門家によるスーパーバイズを受けています。職員が外部研修に参加する機会を設定しています。				
主な行事等	夏祭り・芋ほり遠足・そよりんピック・お楽しみ会・戸外活動・豆まき・お祝い会等								

※理念、及び支援方針については、文京区児童発達支援センターとして、児童発達支援「そよかぜ」と放課後等デイサービス「ほっこり」が同一の内容としています。